

R 6 . 4 . 1 5

第3号

通巻 161号

学院通信

発行
金光学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷 1486
TEL (0865) 42-3115
FAX (0865) 42-3114



他宗教研修 (立正佼成会 福山教会)

全教一家となって

学院長 大代 信治



本日、令和五年度卒業証書授与式を迎えることができました。振り返りますと、時を隔てているとはいえ、教祖様ご立教の地にある学院において、教祖様と同じ空気を吸い、同じ水を飲み、同じお土地の上で生活をした一年間でした。

教主金光様の御取次のもと、全教の祈りを受けて、それぞれが願いを立てて門をくぐり、神様のお働きを身に心にいただいで、信行学行に取り組んできました。同期生と日常生活を共にし、四年ぶりの在籍外教会実習も実施でき、それまでの人生にはなかった貴重な経験をそれぞれが重ねてきました。

この一年間、「神に心を向ける」「神の願いに生きる」という信行目標をもって、「神人の道」が自らの生活に現れてくるようにけいこを進めてきました。こうした経験は、個々のものではありませんが、学院として、お道としての経験でもあり、終生お道の御用にとの願いのもとに、共有する財産として大切にしたいとも思います。

四代金光様は、「教祖様流の生き方を」と教えてくださいました。学院での生活や経験は、教祖様の生きられた御跡を辿る道でもあったと思います。教祖様を経験するとは言い過ぎでしょうか。教祖様ならどう思われたであろうか、教祖様もこう感じられたのだろうかと思いを巡らせ、天地の尊さに気付き、人のやさしさに触れて、あるいは修行の厳しさを感じて、教祖様の足跡を求める日々でした。

教主金光様が、「教祖様のご信心を生活に現すけいこ」と教えてくださり、御自らお取り組みくださっている、そのお側での信行は格別ありがたいものだったと思います。この経験をもってそれぞれの御用の場に赴き、教祖様、歴代金光様、現教主金光様とともに、全教一家となって教祖様の開かれた「神人の道」が一人ひとりの生活に現れてくるご神願成就のお役に立たせていただきたいと切に願っています。

ご卒業おめでとう

先輩諸師からのことば

何事にも丁寧な人に



広島県・
芸備教会長
佐藤乃武雄師

皆様が願いを立てられ、令和五年五月金光教学院へ入学され、金光様のご祈念を頂き、学院長先生はじめ諸先生方の並々ならぬご指導の下、学院での信行為無事終えられ、ご卒業されますこと、真におめでとうございます。

皆様の無事卒業を祈り続けて下さっていた各々の教会の教会長先生をはじめご信奉者の方々のお喜びはいかばかりかと思えます。

本部広前で教主金光様と共に頂くご祈念には、天地の親神様に向かう教祖様の実意丁寧な信心の根源に通じるような、ご霊地でなければ感じ取れないものがあります。

私はかねてより「挨拶のできる人、



頭を下げる人、そして何事にも丁寧である人、そうであるよう心がけること」の大切さを話してきました。どうぞこの十一カ月で身に頂いたお徳を大切に、神様との絆をますます強いものにしていかれることを願わせていただきます。



求道の日 (覚書筆写)

全教の宝



宮城県・
石巻教会長
井上直文師

以前にある大先輩の先生が、学院生のことを「全教の宝」と称されているのを聞き、当時は「ふーん。それほどものなんだな」と思うに留まっていた。

今年度、私にとって一番関りの深い者(息子)が本部広前の修行生の一人に加えていただけたことよって、御本部参拝の折々、学院生の皆さんを拝見する度に、これまで味わったことのない喜びと希望を心の底から感じさせてもらうことができました。「その通りだ。確かに全教の宝に違いない」と。

ご祈念の声、下駄を響かせ歩を進める姿、タスキをかけて洒掃に励む姿、金光様をお迎えお見送りする姿は、我流になっている私の信心を金光大神様流の信心にその度に引き戻してくれました。

これからみなさんと同志になれることがありがたく、うれしくて堪りませ

ん。一人一人願いを立てて様々な形で、それぞれの持場立場で、「天地金乃神様のありがたいことを伝え、人が助かる」そのお役に立たせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。



求道の日 (神習)

広く大きな心で



令和4年度卒業生
大分県・
大山町教会
諫山理恵師

ご卒業おめでとうございます。皆様が無事に修行を終えられ、ありがたく感じさせていただいています。学院での十一カ月間は、自分と向き合うよい

修行になったことと思います。この後、

教主金光様から教師の任命を頂ければ、皆様は、教師という立場で御用を頂くこととなります。

私は、教師として御用を頂く中で、ありがたい気持ちと同時に、私にこの御用がとまるのかと不安も感じていました。ですが、不安だから出来ない、出来る御用を選ぶのではなく、不安で出来そうにない御用こそお願いしながらさせていただくことが大事だと、両親の口を通して神様から教えていただきました。

今は、不安な気持ちも大切にしながら、ありがたい御用をさせていただき、「広く大きな心で」という稽古に取り組んでいます。そういう心で起きてくる事柄を見ていくと、必ず信心に結びついていると感じることが出来ます。

これからも日々の生活の中で稽古を続け、このお道の信心が現れていくような、そして、まだこのお道にご縁を頂いてない方々にも伝わっていくような生き方となっていくように、神様を支えにして、皆さんと共に、おかげをいただいでまいりたいと願っています。

心の変化



令和4年度卒業生
福岡県・添田教会
中村一郎師

皆様、ご卒業おめでとうございます。学院での修行を終えられて、今はどのようなお気持ちでしょうか。私は、正直なところ解放感が強かったです。学院に行ったら絶対考え方が変わると入学前からよく聞いておりましたが、卒業時点では、あまり実感がありませんでした。そして、父が元気なうちはまだ自由に過ごしていても大丈夫だろうと安易に考え、他所で働こうとしていました。しかし、学院入学以前だったら考えもしないような思いがふつふつと沸き起こり、現在は甘木親教会で修行生としてお世話になっております。卒業の時には、気づいていなかったのですが、学院修行を通して心の変化があったのだと今は感じております。皆様も、これから新たな道に進まれ、それぞれの御用場所で御用を頂くこととなります。そして、ここからも色々な事が起こってくると思います。その

中で、学院入学前だったら腹が立っていたような事柄でも許せる自分になっているというような気づきがあると思います。それは、学院で起きてくる事柄を神様の差し向けとして受け止める稽古をさせていただいたからだと思います。ここからも皆様とその稽古を続けていきたいと願っております。どうぞお体にお気をつけて、ご家族や周囲の方に対する思いを大切にそれぞれの場所でご活躍される事をお祈り申し上げます。



修徳殿入殿

日程

(冬期在籍教会実習後から卒業まで)

12月	29	帰院式
	30	大掃除
	31	年頭御用奉仕
1月	5	第六回 求道の日
	5	実践課題設定週間
	12	教話実習②
	16	教典研究発表
	17	他宗教研修(井山宝福寺)
	23	青少年育成研修
2月	1	第七回 求道の日
	11	第三回 部屋替え
	13	礼典実習
	20	在籍外教会実習
3月	11	第三回 修徳殿入殿
	15	他宗教研修 (立正佼成会 福山教会)
	24	学院・春季霊祭
	25	第三信心レポート懇談
	26	邑久光明園訪問(自主活動)
	28	天地金乃神大祭御用奉仕
4月	12	学院・天地金乃神大祭
	13	身辺整理・大掃除
	15	卒業証書授与式

学院生活を振り返って

学院生の

声!

折られてきた自分で



長崎県・杵岐教会
末永 大城

私は、学院に入学してから決めた取り組みとして、在籍教会の両親や六人の兄弟をはじめ、信者さんや縁のある先生方のことを御祈念してきました。それは、学院生として本部広前に参拝する中で、この毎日の参拝は、御霊地から遠く頻繁に御本部に参拝できない在籍教会を代表しての参拝ではないかと思わされたからです。

しかし、参拝をすればするほど、教主金光様の御取次を頂けば頂くほど、そこにあるのは誰かの為に祈っている私ではなく、誰かに祈られてきた私の姿でした。このことは、学院で祈るということに取り組みなければ、気付くことがなかったように思います。

私にとって学院での修行は、分かったと思っていること、すなわち既知の稽古を繰り返していく中で、未知と出会い、未知を求め、道となっていくダイナミックな道の働き、そのほんの一部を見せていただいた一年であったように思います。

晩秋の肌寒くなった頃、学院では午前の授業が始まる前に、回廊で日向ぼっこをするのが流行りました。ある時、朝から雨で私が「今日はダメだね」と言うと、一緒にいた同期生は「雨は雨で風情があつていいよね」と言いました。「おかげは和賀心にあり」の大切なところは、嬉しい事があつた時だけ和らぎ賀ぶ心になるのではなく、起こってくる事を和らぎ賀ぶ心で嬉しい事にしていこうと思えます。そして、磨かれた宝石に光が当たるとキラキラするように、その賀ぶ心があつて神様のお働きは生き生きと現れてくるのだと思えます。その出来事から私は、晴れは晴れとして雨は雨として喜ぶ、万事にそう



学院・春季霊祭

本心の玉を磨く



山口県・仙崎教会
濱田 裕太郎

無事学院を卒業させていただけとができて



第2回教話実習

ましたが、ここからも油断はできません。学院に入学する前に勤めていた飲食店で、手洗い場の鏡を綺麗に磨いても、忙しくて磨けない日が二、三日続くと水滴の跡だらけになるということがありました。本心の玉も日々磨くことを怠るとすぐに曇ってくると思えます。これからも日々本心の玉を磨き、信心の稽古に努めさせていただきたいです。

神様ってすごい!



鳥取県・米子教会
河合 あゆみ

私は学院に入学するまでの間、全く信心をしてなかったですし、私には関係ないことのように思っていました。今までの人生で一番大きな決断をした時も神様や金光様におすがりすることなく、自分勝手に決めてしまい、教会の御用よりも、友人との遊びを優先させていました。

二月にあった在籍外教会実習の期間中、「もし信心していなかったら…」



年頭御用奉仕

ということを考える機会が何回もありました。在籍外教会実習に行く前も、学院の先生に、「自分が神様に向かえないしんどい時でも、代わりに家族はあなたの分まで神様に祈ってくれてはさずで、そこから神様が働きかけてくださってこそ今の今なのでは？」と言ってもらいました。確かに私が神様に向かえていない時も、神様は私を見放さず待っていてくれました。そして学院入学という道をつけてくださったのだと感じました。そして、こんな私に対しても神様はなんて心が広いんだ！と思いました。こんな気持ちにさせてくださったのも間違いなく神様です！神様ってすごい!!今の私の気持ちです。改めて考えてみると、両親やご先祖様が信心してくれたから、今の私があ

いつまでものびのび

るのです。今の私は多くの人の信心があつて成り立っているんだと気付かされました。ここからさらに、私自身も信心をしっかりと進めていきたいと願っています。

■他宗教研修(井山宝福寺、立正佼成会)

他宗教研修として、一月十七日に臨濟宗井山宝福寺、三月十五日に在家仏教教団である立正佼成会の福山教会を訪問した。宝福寺では、法話、座禅修行、作務など、寒中に伝統的な仏教の修行を体験した。立正佼成会での研修は、四年ぶりであり、この度の実習先の福山教会では、体験説法として、二名の信奉者の信仰体験を拝聴し、また、車座になりそれぞれの悩みや問題を分かち合い、信仰的な受け止め方を語り合う法座も体験した。学院生は、違う宗派の実際に触れ、広く宗教の働きや役割を理解することができた。そして、ここまで学んできた本教についても今までとは違った視点で見直し、自らの使命と役割を確かなものにする機会と

もなった。また、多くの方から、学院生へ期待と励ましの言葉を頂き、大変ありがたいことであった。

立正佼成会・法座



井山宝福寺・座禅

■礼典実習

礼典実習では、「祭式」及び「祭詞」の授業で習得した基礎的内容をもとに、葬儀式、五十日祭並びに合祀祭、結婚式、地鎮祭の各諸祭の模擬祭典を行った。乾物、野菜、果物などを調饌し、実際に祭服を着て祭員を務め、本番に近い形で執り行った。各諸祭の意味合いや次第を改めて確認し、時間内に皆で分担して設えをすることができた。また、全員がいずれかの諸祭で祭主を務め、自らが起草、浄書した祭詞を奏上する貴重な機会ともなった。卒業後の御用も視野に入れ、それぞれが真剣に実習に取り組むことができた。



礼典実習・火葬の儀

礼典実習直後の在籍外教会実習中に宅祭など諸祭の御用に携わった学院生もおり、礼典実習での学びを活かすことができたようである。



礼典実習・結婚式

■在籍外教会実習

在籍外教会実習は本部広前の修行生として、在籍教会以外の教会活動の実際に加わり、教会長の信心や布教姿勢に触れることを通して、これまで培った自らの信心・求道姿勢を吟味し、自己の役割を明確にしていくことを願っている。近年、コロナ禍により実施を見送っていたが、この度、受け入れ教会のご理解とご尽力を賜り、四年ぶりに実施することができ、二月二

十日から三月二日の日程で学院生は、それぞれの受け入れ教会へ赴いた。様々な御神縁を頂き、教会長先生のご教導のもと、教会現場での信心に触れ、布教の実際を見させていただく中で、多くのことを学び、気付き、様々な示唆を得たようである。一人ひとりが神様の働きを感じた十二日間の実習だったようだ。

■邑久光明園訪問(自主活動)

ハンセン病を正しく理解し、教師を志す者として、人間のあらゆる問題を信心の目で洞察することの大切さを学ぶことを願いとして、三月二十六日、自主活動として国立療養所邑久光明園を訪問した。

園に到着後、納骨堂でご祈念をし、園内でお道の信心を続けてこられた金光教求信会のお広前を参拝した。その後、お広前で求信会の榎本初子氏から自身の体験談や現状などを聞かせていただいた。

午後には、園内の研修室で、青木美憲園長から、ハンセン病の正しい知識と、差別や偏見から誤った隔離政策を続けてきた負の歴史についてご講義い

ただいた。特にハンセン病の問題は我々一人ひとりの心の問題であり、ハンセン病の負の歴史を絶対に繰り返してはならないという言葉は心に響くものであった。

院生を合わせた二百三十三柱の霊神様のお働きを受け、ここまで学院修行を進められてきたことへのお礼と真心を現す祭典として奉仕される。祭典に臨むにあたり学院生全員で、祭員や祭詞の起草・浄書、神饌物の調饌、奏楽等の御用を分担した。学院生は、今日まで学院生活を通して学んだことを活かし、真心を込めて実意丁寧に御用に取り組んだ。入学以来、ご霊地で数々のお育ていただいたことへのお礼を、神様、霊様へ申し上げ、ここから先の御用成就をお願いさせていただいた。



邑久光明園・金光教求信会のお広前

■学院春季霊祭・天地金乃神大祭

本部広前のご比礼を受け、学院広前において、三月二十四日に春季霊祭が、四月十二日に天地金乃神大祭が執り行われた。

これらの祭典は、神様と、学院霊舎に祀られている物故職員と講究生・学



学院・春季霊祭

学院・
天地金乃神大祭

